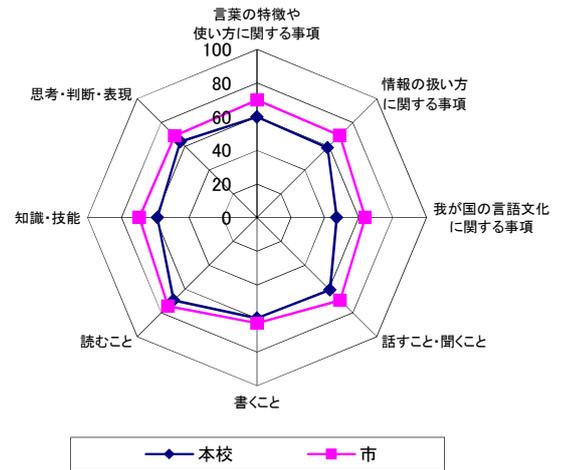


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	59.9	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	58.8	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	47.1	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	60.8	69.5	71.5
	書くこと	59.8	62.8	67.1
	読むこと	69.6	74.4	73.7
観点別	知識・技能	58.8	69.4	71.9
	思考・判断・表現	63.9	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

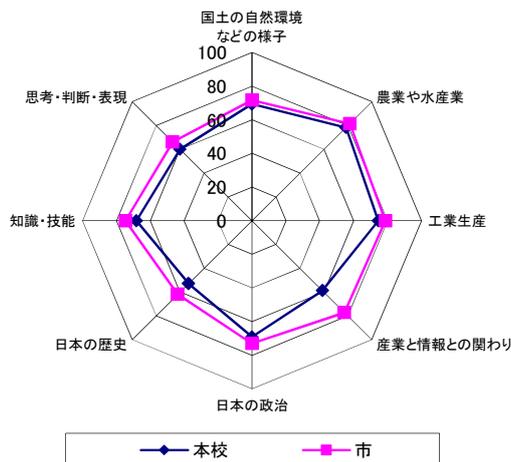
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○繰り返し敬語の学習に取り組んだため、状況に合わせて適切な敬語を選択する問題の正答率は、比較的高い。</p> <p>●漢字の読み書きが未定着である。</p> <p>●一つの文章を二つに分けることや、接続詞の活用に課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>●漢字の読み書きが定着するよう、部首やつくりから漢字の意味を理解させたり作文で使えるように指導したりする。</p> <p>●接続詞の適切な使い方を確認し、年間を通して書く活動に取り入れていくとともに、授業内の話す場面にも取り入れていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり目的に応じて文章を簡単に書いたりすることに課題がある。</p>	<p>●文章を読んで、適切な情報を選択する学習や、同じ文章でも発問によって情報の選び方が変わること気付けるようにする。</p> <p>●複数の資料を関連付ける学習の中で、共通点や相違点に線を引く、どの情報が必要か考えさせる指導をする。</p> <p>●国語だけでなく多数の資料から情報を集める他教科等の調べ学習などでも、児童が相互に読み取りを共有できるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●和語・漢語の違いの理解が不十分である。</p>	<p>●普段の漢字練習や意味調べにおいて、漢字辞典や国語辞典を活用し、語句の由来にも着目する習慣を付ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○話の内容を正しく捉えることができた児童は、その後の記述問題に対しての正答率も高かった。</p> <p>●話の中心を捉えることに課題が見られる。</p>	<p>●聞き取りの学習を行うときに、どこに焦点をあて聞き取りをするのか視点を与え、話の理解度を最後に確認するなど、自分事として話を聞くことができるよう指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低いだが、比較的其他の領域より高い。</p> <p>○普段の学習において、書く活動に力を入れているため、目的や意図に応じた書き方の工夫や、指定された文量で自分の意見を書くこと、自分の立場を明確にして意見を書くことの正答率がやや高い。</p> <p>●段落を意識して文章を書くことに課題が見られる。</p> <p>●予想される反論に対して自分自身の考えを書くことに課題がある。</p>	<p>●復習の文章を比べて読む活動を取り入れ、段落の構成の仕方により、読みやすさや分かりやすさが違うことに気付けるようにし、自身の作文につなげていく。</p> <p>●相手意識をもたせた文が書けるよう、意見文を書く際には、書く相手を明確にし、反対意見も想定しながら書くように指導する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○読書指導に力を入れてきたことから、児童は好んで物語を読むようになり、物語の読み取りでは、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができている。</p> <p>●説明文での読み取りでは、文章全体の構成を読み取ることができていない。また、叙述をもとに正確に読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>●文章全体の構成を読み取れるよう、説明文では、文章構成を図示するなど、視覚的に理解できるようにする。</p> <p>●物語文では、叙述を基に場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を正確に読み取ることができるように、情景に関する言葉に着目させ、その言葉のもつ意味や意図を確認しながら指導する。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.4	71.6	67.5
	農業や水産業	78.4	81.5	82.1
	工業生産	74.5	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	58.8	77.2	68.2
	日本の政治	69.1	73.1	77.9
	日本の歴史	52.9	62.0	65.8
観点別	知識・技能	68.2	74.6	74.5
	思考・判断・表現	60.0	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

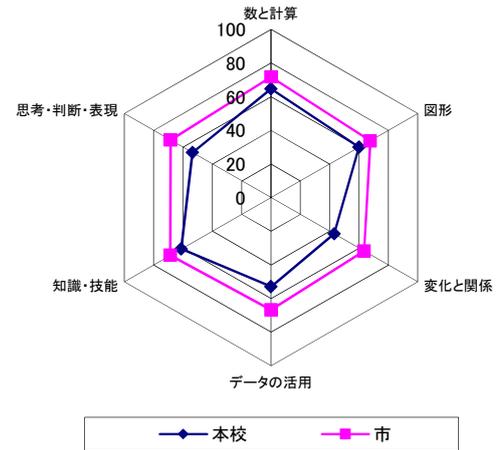
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○自然災害から生活を守る設備を答える問題では、市の平均を上回っている。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取ることに課題が見られる。	・日本の主な地形の名称と位置の理解が定着していない児童が見られるため、繰り返し指導し、定着を図る。 ・自然災害や防災に関わることなど、自分たちの生活や環境に関する理解ができていない。今後も自分との関わりを意識させ指導にあたる。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○A Iドリル等で都道府県の学習を繰り返し行ったことで、都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに適切な地図を判断する問題は、市の平均を上回った。 ●地産地消の取り組みについての理解が不十分である。	・統計資料から日本の農水産物の特徴を読み取れるよう、グラフのどこを見るのかポイントを押さえた上で読み取らせることで焦点化を図った授業を展開していく。
工業生産	平均正答率は、市の平均より低い。 ●日本の輸出品の資料を読み取ることに課題が見られる。 ●輸送手段とその特徴に着目して、自動車の出荷の工夫を捉え、表現することに課題が見られる。	・統計資料から分かることを文章で理解することに課題が見られることから、資料を読み取り、分かることを発言させたり文章化させて表現したりする学習活動を取り入れていく。 ・複数の統計資料を読み取れるよう、複数の資料を比べ共通点や相違点を見付ける学習を取り入れていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より低い。 ○わたしたちの生活と情報との関わりについておおむね理解している。 ●資料に着目し、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断することに課題がある。 ●資料に着目し、森林の働きを捉え、表現することに課題がある。	・今後も情報活用の重要性についてさらに定着を図っていく。また、根拠をもとに順序立てて説明することを意識した指導を行う。 ・実生活での知識を取り入れながら、社会の仕組みを理解する機会を設ける。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ○基本的人権の尊重について、生活の中の具体的事例をもとに判断する問題では、市の平均を上回っている。 ●図に着目して、国民による政治の仕組みを判断することに課題が見られる。	・社会の仕組みについて、憲法や政治などの基礎的な知識を随時確認しながら、自分たちと社会との関連性を理解できるようにする。 ・図で裁判の流れを確認した上で、社会に実際に起きている問題と裁判内容にふれることで、裁判の仕組みについてより具体的に理解できるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○室町時代の文化についての問題は、市の平均を上回っている。 ○政策の共通点を読み取る問題は、市の平均を上回っている。政策について、時代ごとに対比させながら学習を進めたことで理解が深まった。 ●政策の意図や人物に関する理解が不十分である。	・歴史的事象だけでなく、それを背景とした文化も事象と合わせて、理解を進めていく必要がある。その時代の政治的内容と文化内容の関係性について、視点を明確にしながらかえる経験を積むことができるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	64.7	71.8	76.2
	図形	60.0	67.7	67.8
	変化と関係	43.1	63.4	62.7
	データの活用	52.9	66.7	61.5
観点別	知識・技能	61.2	68.6	70.7
	思考・判断・表現	53.5	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

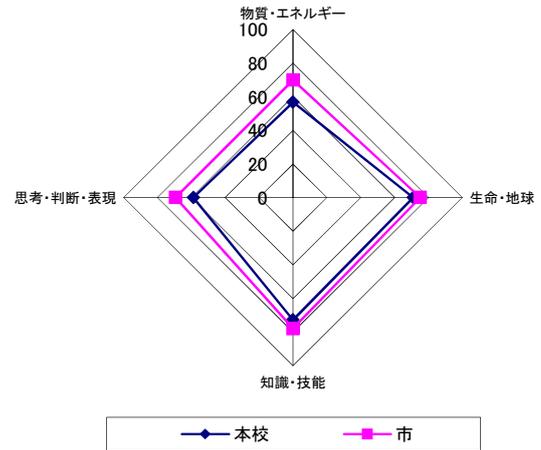
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○かけ算、わり算の正答率は高い。約分のある分数の計算問題を理解するまで反復して解かせてきたためと考えられる。</p> <p>○文字で表された式について問題場面を選択することができる。</p> <p>●文章と図(数直線)を同時に読み取り、答えることに課題がある。問題を立式をする際に、数直線に置き換え、数直線から立式する考え方が身に付いていなかったためと推察される。</p>	<p>・分数の計算については、かけ算やわり算、通分のあるたし算、引き算など分けて問題を解かせるだけではなく、四則計算が混ざった問題を授業のはじめに取り入れる等して、継続して学習する。</p> <p>・授業で文章問題の立式をノートに書かせる際に、数直線や図に表して考え、説明する活動を取り入れていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○合同な三角形の作図の仕方について、授業で繰り返し学習したことで、理解が深まった。</p> <p>●直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、二つの直方体として捉えたり、大きな直方体の体積から不要な直方体の面積を引いて立式したりすることができなかつたと思われる。</p> <p>●多角形の円の周りの中心の周りにできる角の大きさを求めることに課題がある。</p> <p>●半円と四分の一の円を組み合わせてできる図形の面積を求めることに課題がある。同様の問題にふれる機会が少なく、どの部分の面積を求めたらよいか理解するのが難しかったと思われる。</p>	<p>・複合図形の体積について、一つの求め方だけでなく、複数の求め方を答えさせる。</p> <p>・具体物やICTを活用することで、視覚的に図形を捉えられるようにし、図形のイメージを共有できるようにする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●時速を秒速や分速に直す問題に課題がある。速さを変換する問題を取り組むことが不十分であったと考えられる。</p> <p>●単位変換の意味付けが不十分であったため、理解ができていないと考えられる。</p> <p>●割合の求め方の理解が不十分であり、問題から基準量と比較量を読み取りに課題が見られる。文章問題から情報を読み取り、立式する力が定着していなかったと思われる。</p>	<p>・速さを求める問題を解くとともに、速さの変換の仕方を繰り返し確認しながら練習問題に取り組みさせるようにする。</p> <p>・適切な量感を身に付けさせることで、答えの整合性に気付き、見直せるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○ドットプロットから、中央値を読み取ることができている。データの処理について、類題を多く解いたことが要因と考えられる。</p> <p>●値に0がある連続量の平均を求めることに課題がある。0の値も個数に含めて計算する必要があることが知識として定着していなかったと思われる。</p> <p>●ヒストグラムや折れ線グラフ、帯グラフの読み取りが不十分である。グラフの読み取り方が、十分に身に付いていなかったと考えられる。</p>	<p>・教科書のデータだけでなく、児童の生活に即したデータをグラフや表に置き換え、類似問題として平均値を求めさせたりデータを読み取らせたりすることで、実感をもった学びにつなげていく。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.7	69.9	67.8
	生命・地球	71.0	75.1	73.7
観点別	知識・技能	72.7	77.8	78.4
	思考・判断・表現	58.8	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○水よう液の性質では、炭酸水から出る泡が二酸化炭素であることを十分理解している。実験結果の分析、考察を行い、結論を導き出す学習を行っている成果が表れた。</p> <p>●電流の働きでは、電流の強さと電磁石のはたらきを調べる実験方法やその目的の理解に課題が見られる。何のために、どのような実験をするのかが結び付いていないと思われる。</p>	<p>・電流の働きを理解させるために、予想や仮説を基に、解決方法を発案させ、実験を行う。実験から得られた結果を、友達の考えと比較して、問題を解決する流れを定着させる。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○生物と環境については、市の平均を上回っている。生物同士の関わりを多面的に調べることで、食物連鎖の関係を捉えることができた。</p> <p>●動物のからだのつくりとはたらきでは、実験結果から呼吸の働きについて分析したり、まとめたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・動物のからだのつくりやはたらきを理解させるために、映像や模型、図書資料、コンピュータシミュレーションなどを活用し、多様な調べ活動を充実させる。</p> <p>・調べたことを図や表などに整理して伝え合う活動を授業の中で取り入れる。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めの懇談会で、家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力を依頼している。	家庭学習時間については、1・2・5年生で8割の児童が学年でめやすとしている時間を達成できている。これは、市の平均よりも高い。「自分で計画を立てて取り組んでいるか」については、3年生で市の平均を上回っているが、その他の学年では、5割程度である。学びを自分のものとして捉えられるような学習習慣を身に付けさせたい。
児童とともに学びを共有する単元のカリキュラムマネジメント	主体的に学習に取り組む態度を育てるために、児童が自ら問いをもち、学習の見通しをもつことができる学習計画を立てるようにしてきた。	学習に対する気持ちや態度は、ほとんどの項目で8割が肯定的な回答をしている。一方で、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」については、7割程度であった。それぞれの学年で、学習計画作りに力を入れてきたが、児童の問いを生かした学びへと結び付いていなかったと考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・課題となる内容について、全学年意図的、系統的に授業や朝の学習、家庭学習に取り入れ、定着を図る。
- ・児童の「学びたい」を引き出す問い作りを行い、引き続き単元全体を通したカリキュラムマネジメントを行っていく。また、他者と交流して学習課題を追求・解決する場を設定することで、粘り強く学習に取り組めるようにする。
- ・児童の学習へ向かう気持ちを向上させるために、自主学習で何に取り組んだらよいのか児童が自ら選択できるような具体的な手引きを、発達段階に合わせて見直し作成する。
- ・自分の考えを書く時間を確保し、さらに自分の考えを根拠を挙げながら話す場を授業の中で意図的に設定していく。